

開講期	2025年度前期			単位数	2.0単位
科目[授業]名	7363 社会政策			開講形態（隔週 偶数＝隔週2コマ）	週間授業
種別	なし			定員	
履修可能学年	2年/3年/4年	重複履修	×	全学開講	○
曜日時限	木曜2限				
教室	J204教室				
代表教員	堀川 祐里				
担当教員	堀川 祐里				
テーマと到達目標	「人はなぜ働くのか」、「働けない時にはどうやって生きていくのか」という問いを歴史的な視点から考えましょう。将来、社会人になる受講生に、働く自分を守る知識について学ぶ機会を持ち、生きる力を身につけてほしいと思います。 社会政策に関する基礎知識を身につけ自分の言葉で説明できるようになるとともに、授業で学んだことを自分の生活に関連付けて論じられるようになるのが到達目標です。				
概要	社会政策は、大きく分けると労働問題と生活問題（社会保障、社会福祉）の2つに分けられます。 この科目では、まず前半に社会政策の理解の基礎となる社会政策の発展してきた歴史を学びましょう。 さらに、後半では労働問題から賃金と労働時間について学んでいきます。 後期に開講される「社会福祉」は最も関連が強い科目となります。両方を履修することで社会政策全体の理解が深まります。 なお、授業全体を通して、ジェンダーの視点で社会を観察することにも挑戦していきます。				
対面科目/オンライン科目	対面科目				
授業計画				担当教員（複数の教員が担当する場合のみ記載）	授業方式
第1回	オリエンテーション：授業計画、成績評価、注意事項等に関する説明。				対面授業
第2回	社会政策とは何か：資本主義社会における労働と生活				対面授業
第3回	社会政策の歴史的展開1：イギリス①絶対王制下の救貧制度～貧困の「発見」				対面授業
第4回	社会政策の歴史的展開1：ドイツにおける社会政策の歴史的展開				対面授業
第5回	社会政策の歴史的展開1：イギリス②世界恐慌～福祉国家の成立				対面授業
第6回	社会政策の歴史的展開2：日本 戦前から戦時期				対面授業
第7回	社会政策の歴史的展開のまとめ（中間試験）				対面授業
第8回	社会政策の歴史的展開のまとめ（中間試験の振り返り）				対面授業
第9回	現代日本の家族と賃金①				対面授業
第10回	現代日本の家族と賃金②				対面授業
第11回	現代日本の家族と労働時間①				対面授業
第12回	現代日本の家族と労働時間②				対面授業
第13回	日本社会における過労死の現状①				対面授業
第14回	日本社会における過労死の現状②				対面授業
第15回	現代日本の社会政策の課題				対面授業
成績評価の基準	3種類の評価方法の総合評価であり、その内訳は、期末試験50%、中間試験30%、その他20%です。 ※期末試験は持込不可です。 ※中間試験は、授業の理解度の確認のため持込可とし、中間試験後に振り返りもおこないます。 ※その他として、授業内でのリアクションペーパー等の課題をおこないます。 ※欠席時数が全授業時数の3分の1を超えたものは期末試験の受験資格を失います。				
履修にあたっての留意事項	授業に関しての詳細や注意事項は初回の授業で説明するため、この講義の受講の意思がある場合、また受講するか否かを検討している場合には、第1回目の授業に出席してください。 「成績評価の基準」に記しているように、定期試験だけを受験して満点を取っても、授業内で行う中間試験、その他の課題での得点がない場合は、単位が付与されないので注意してください。 皆勤が原則であるため、出席自体は評価の対象とはなりませんが、授業では自分で「メモ」を取ることを重要視しています。 なお、各回の授業内容は受講生の理解を促進するために、順序を入れ替えることがあります。 最後に、授業中、他の受講生の迷惑になる行動については慎んでください。特に私語は厳禁とし、私語を行っている受講生には教員が退				

	室を促すことがあります。
オンライン授業方式(同時双方向型・オンデマンド型)の詳細	オンラインで授業（同時双方向型ないしオンデマンド型）を行う可能性もあります。 初回授業で、それぞれの授業回の確定した授業方式を伝えるため、この講義の受講の意思がある場合、また受講するか否かを検討している場合には第 1 回目の授業に出席してください。
【種別】人数制限（抽選）授業の優先条件	

◆教科書・教材

教科書以外に必要な教材費用	なし。		
教科書	教科書は用いず、毎回の授業で配布するレジュメ、資料、参考文献等に基づいて講義を進めます。受講生には「メモ」をとることを習慣づけ、自分だけのノートを作成していくことを心がけてほしいと思います。なお、ポータルサイトでの資料配布を行うため、授業の前にはポータルサイトを確認し、適宜資料の印刷を行っておいてください。	教科書(ISBN)	なし。
参考文献	石畑良太郎・牧野富夫・伍賀一道編著（2019）『よくわかる社会政策 第3版 雇用と社会保障』ミネルヴァ書房。 石井まこと・所道彦・垣田裕介編（2024）『社会政策入門ーこれからの生活・労働・福祉ー』法律文化社。 岩永理恵・卯月由佳・木下武徳（2018）『生活保護と貧困対策その可能性と未来を拓く』有斐閣ストゥディア。 堀川祐里（2022）『戦時期日本の働く女たち ジェンダー平等な労働環境を目指して』晃洋書房。	参考文献(ISBN)	なし。